

Market Watching

発表日: 2019年4月8日(月)

景気悲観論一旦後退(マーケットウィークリー)

～中国の貿易もはや回復なら楽観論を後押し～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
取締役・首席エコノミスト 嶋峰 義清 (TEL: 03-5221-4521)

【先週の市場動向】

先週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	結果	コンセンサス	前回	備考
4月1日(月)	日本: 日銀短観(3月)・大企業製造業業況判断	+12	+13	+19	DI
	・大企業非製造業業況判断	+21	+22	+24	DI
	日本: 新車販売台数(3月)・乗用車	▲5.7%	—	+0.5%	前年比
	中国: 財新PMI製造業景気指数(3月)	50.8	50.0	49.9	
	ユーロ: 消費者物価指数速報値(3月)・総合	+1.4%	+1.5%	+1.5%	前年比
	・コア	+0.8%	+1.0%	+1.0%	前年比
	米国: 小売売上高(2月)・全体	▲0.2%	+0.3%	+0.2%	前月比
	・除自動車	▲0.4%	+0.4%	+0.9%	前月比
米国: ISM製造業景気指数(3月)	55.3	54.2	54.2		
米国: 自動車販売台数(3月)	1,750	1,670	1,660	万台	
4月2日(火)	豪州: 金融政策委員会	1.50%	1.50%	1.50%	RBA政策金利誘導目標
4月3日(水)	ユーロ: 小売売上高(2月)	+0.4%	+1.3%	+1.3%	前月比
	米国: ISM非製造業景気指数(3月)	56.1	58.0	59.7	
	米国: ADP雇用統計(3月)	+129	+180	+183	前月差、千人
4月4日(木)	インド: 金融政策委員会	6.00%	6.00%	6.25%	レポート
4月5日(金)	日本: 家計調査(2月)・全世帯実質消費支出	+1.7%	+2.1%	+2.0%	前年比
	日本: 毎月勤労統計(2月)・現金給与総額	▲0.8%	+0.9%	+1.2%	前年比
	米国: 雇用統計(3月)・非農業就業者数	+196	+175	+20	前月差、千人
	・失業率	3.8%	3.8%	3.8%	
	・時間あたり賃金	+3.2%	+3.4%	+3.4%	前年比
4月6日(土)	—				
4月7日(日)	—				



主要市場の動向

	直近値	変化			移動平均値		
		1週前比	1月前比	1年前比	25日	75日	200日
10年債利回り							
米国	2.495	+9.0	▲20.5	+3.7	2.397	2.482	2.643
日本	-0.035	+6.0	▲4.5	▲7.5	-0.047	-0.022	0.051
ドイツ	0.007	+7.7	▲16.1	▲51.7	0.043	0.135	0.290
豪州	1.905	+13.0	▲25.0	▲76.0	1.940	2.125	2.436
株価							
NYダウ	26424.99	+1.9	+2.4	+7.8	25825	25005	25225
日経平均	21807.50	+2.8	+0.4	+0.7	21463	20903	21835
ユーロSTOXX50	3447.47	+2.9	+3.6	+0.5	3351	3205	3269
上海総合	3246.57	+5.0	+6.3	+3.7	3083	2782	2731
為替相場							
ドル/円	111.71	+0.8	▲0.2	+4.0	111.18	110.27	111.49
ユーロ/円	125.31	+0.8	▲1.0	▲4.7	125.41	125.18	127.75
豪ドル/円	79.37	+0.9	+0.1	▲3.8	78.79	78.48	80.28
ユーロ/ドル	1.1218	+0.0	▲0.8	▲8.3	1.128	1.135	1.146
商品市況							
WTI	63.08	+4.9	+11.5	▲0.7	59.10	54.43	61.13
金	1290.4	▲0.2	+0.4	▲2.6	1298	1300	1249

(注) 10年債利回りの変化は金利差 (bp)。その他は変化率 (%)

為替相場の変化は、ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は+が円安、▲が円高。

ユーロ/ドルは+がユーロ高、▲がユーロ安。

先週 (4/1~4/5) の金融市場は、中国の製造業景況感の予想外の大幅改善を手がかりに景気に対する懸念が後退、株高・金利上昇が進展した。米中の通商協議に対する楽観的な見方も後押しした。

今週のマーケットは、経済指標では中国の貿易統計に関心が集まるほかは総じて小粒。景況感自体が再び悪化するような材料はない。その貿易統計に関しては、輸出の大幅改善が予想されており、その通りの結果であれば株高・金利上昇の流れを一段と進めうる。一方で、不透明要因となるのがイギリスの動向。英首相は、EUに対して離脱期限の大幅延長を求め、EU側もこれに応じるとの見方が出てきている。混迷を深めており、今後の展開も予断は許さないが、離脱期限が大幅に延長されることとなれば、(その後の英政治動向は別として) 市場には一旦の安心要因となる。

【今週のマーケット環境】

今週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	注目度	コンセンサス	前回	備考
4月8日(月)	日本：国際収支統計(2月)・経常収支 日本：景気ウォッチャー調査(3月)・先行き判断DI	★	+26,270 49.2	+6,004 48.9	億円、原数値
4月9日(火)	—				
4月10日(水)	日本：企業物価指数(3月) 日本：機械受注統計(2月)・船電除く民需 ユーロ：ECB理事会・ECB主要政策金利 ・ECB預金ファンダリティ金利 ・トランプ総裁記者会見 米国：消費者物価指数(3月)・総合 ・コア	★★ ★★★ ★ ★★	+0.2% +2.9% 0.00% ▲0.40% +1.8% +2.1%	+0.2% ▲5.4% 0.00% ▲0.40% +1.5% +2.1%	前月比 前年比 前年比 前年比
4月11日(木)	中国：消費者物価指数(3月) 米国：生産者物価指数(3月)・最終需要 ・最終需要(コア)		+2.3% +1.9% +2.5%	+1.5% +1.9% +2.5%	前年比 前年比 前年比
4月12日(金)	中国：貿易統計(3月)・輸出 ・輸入 ユーロ：鉱工業生産(2月) 米国：シカゴ大学消費者信頼感指数(4月速報値)	★★★ ★★ ★	+12.0% +0.2% ▲0.6% 98.0	▲20.8% ▲5.2% +1.4% 98.4	前年比 前年比 前月比
4月13日(土)	—				
4月14日(日)	—				

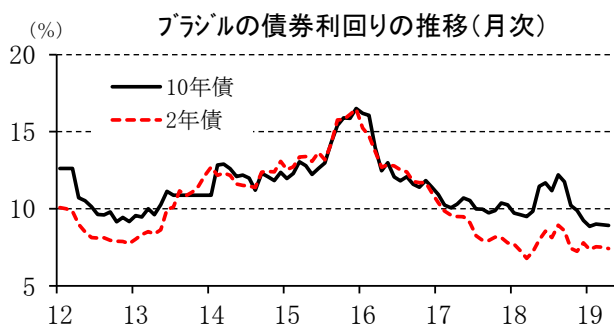
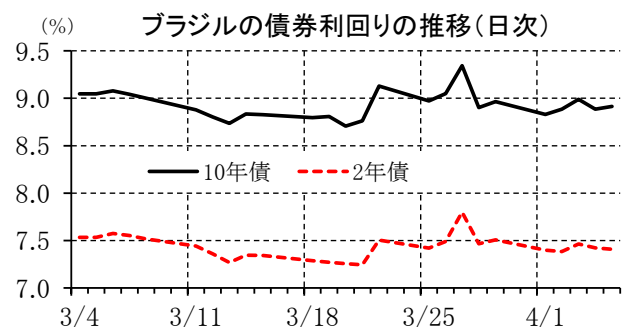
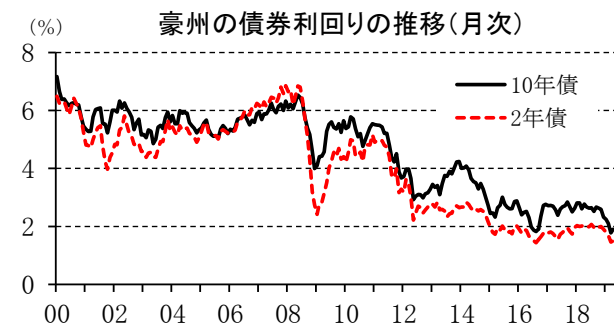
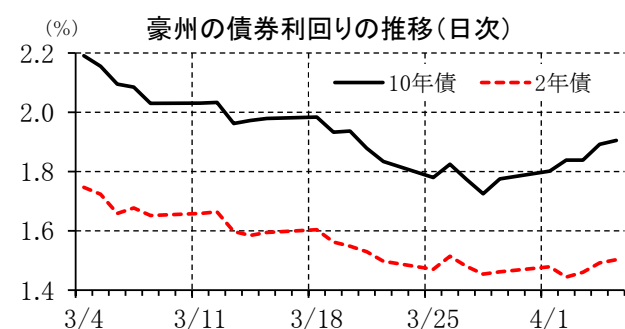
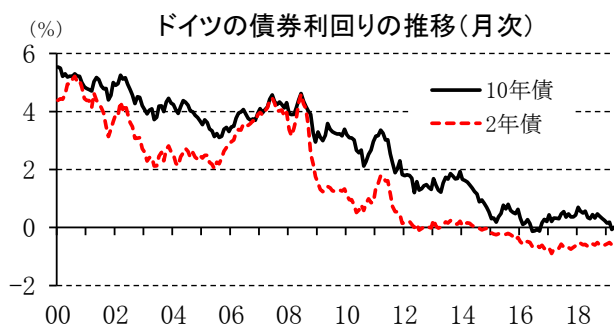
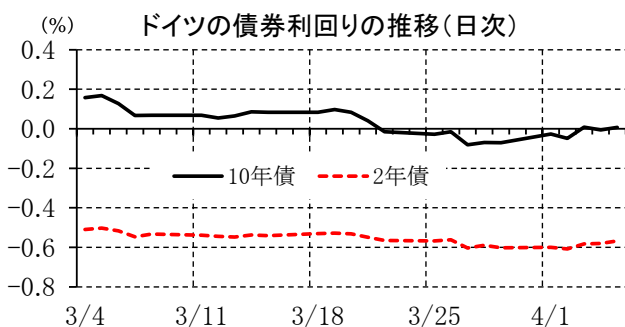
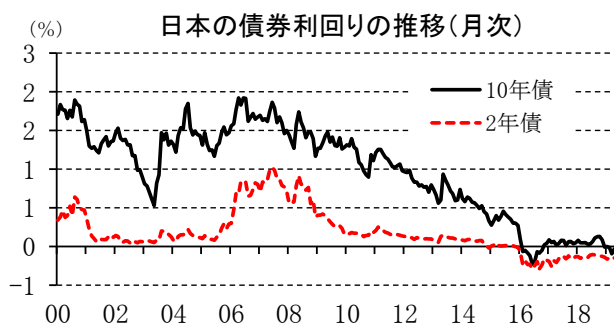
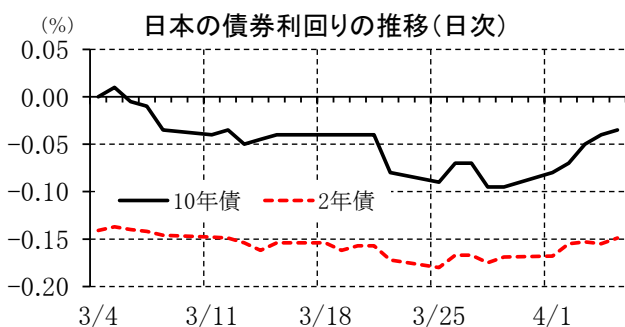
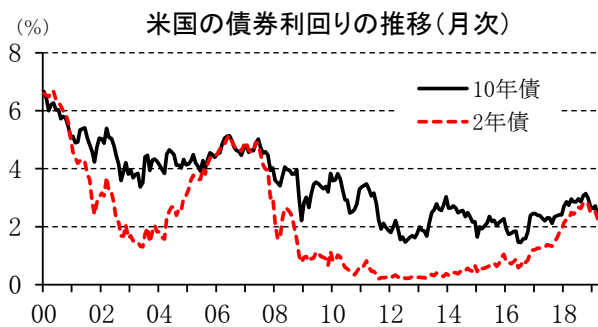
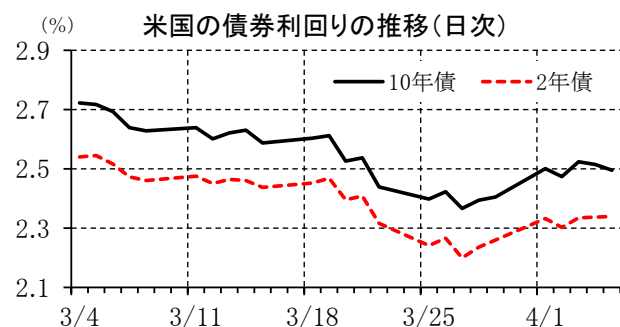
(注) 市場コンセンサスは各種ベンダー調査に基づく。注目度は筆者。

その他の注目イベント・材料

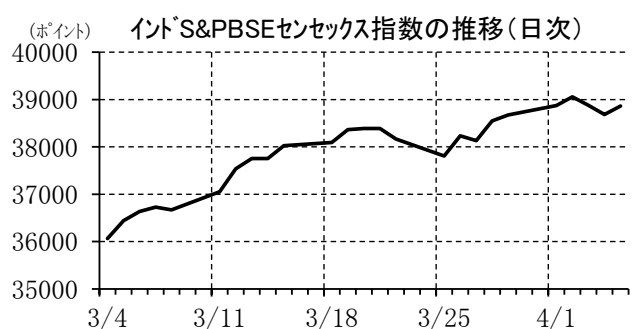
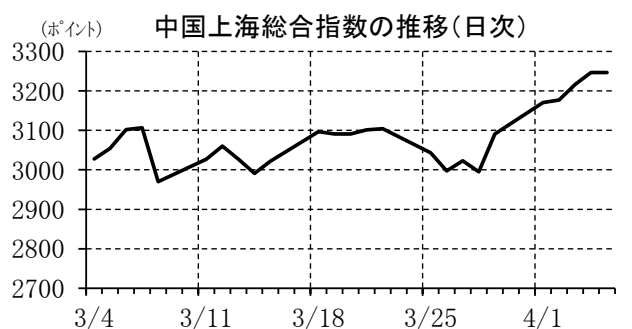
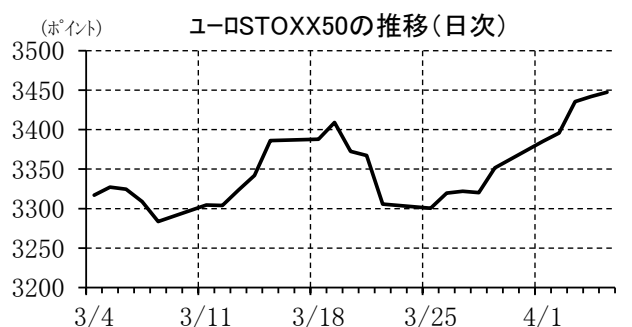
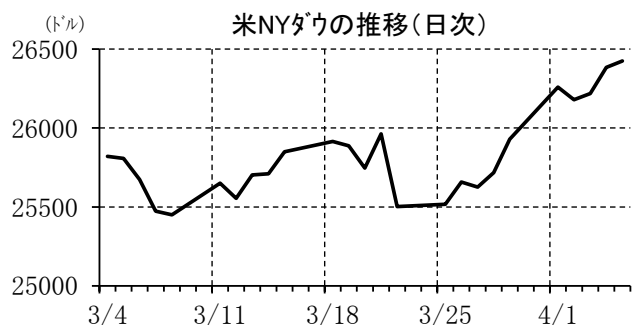
発表日	イベント	注目度	備考
4月8日(月)	日本：日銀支店長会議(黒田総裁挨拶) 中国：李克強首相欧州訪問(～4/12)	★ ★	
4月9日(火)	米国：クラリダFRB副議長講演 イスラエル：総選挙 IMF世界経済見通し発表	★★ ★ ★★	
4月10日(水)	日本：黒田日銀総裁挨拶 EU：英国離脱に関する緊急欧州首脳会議 米国：FOMC議事録(3月分)	★ ★★★ ★★★	
4月11日(木)	G20財務相・中銀総裁会議(～4/12) インド：総選挙投票開始(～5/19) 米国：クラリダFRB副議長講演	★★ ★ ★	
4月12日(金)	英国：EU離脱協議期限 世銀・IMF春季総会(～4/14)	★★★	
4月13日(土)	—		
4月14日(日)	フィリピン：総選挙		

(注) 各種報道等による。注目度は筆者。

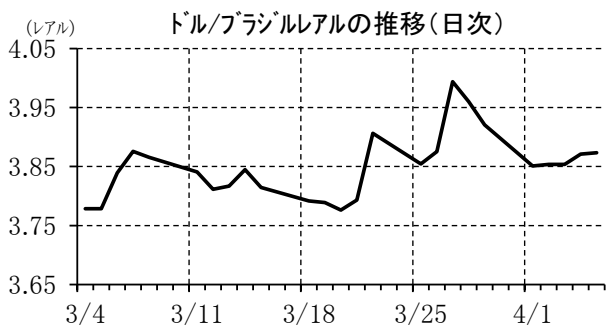
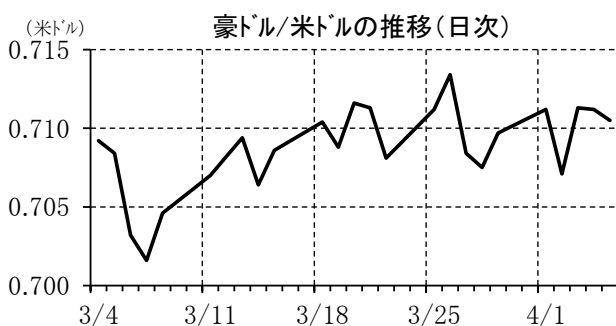
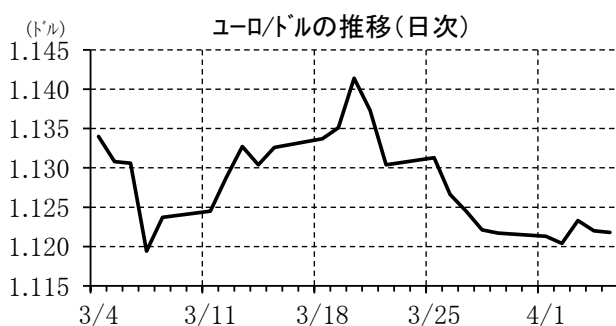
【債券利回り】



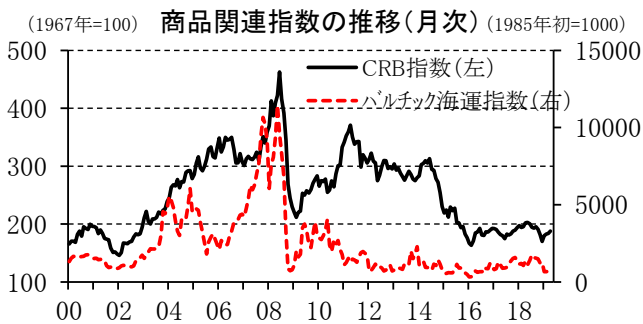
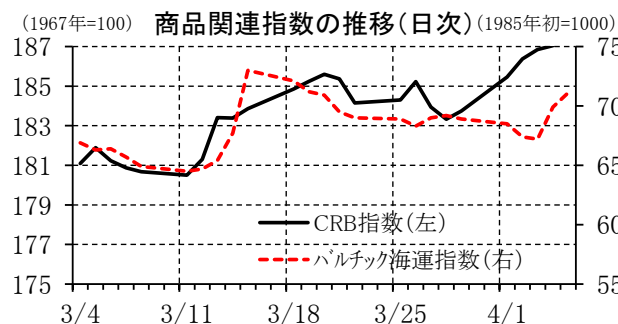
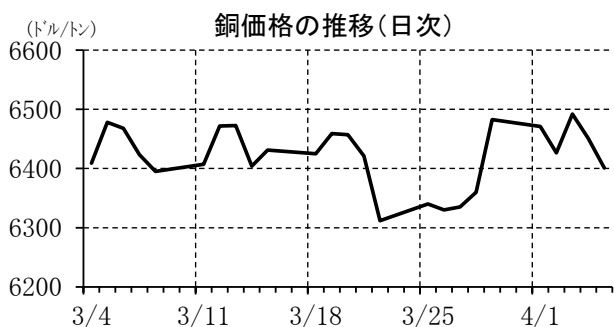
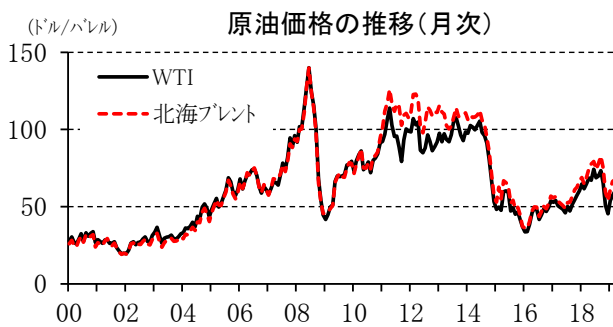
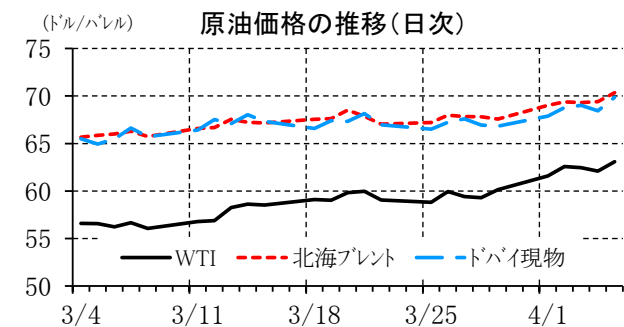
【株価指数】



【為替相場】



【商品市況】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。